



街の中心に広がるチッソの水俣工場 '70

水銀排水の集積地 '60

胎児性水俣病患者 '72

動かなくなった手 '70

■チケット

	当日券	前売券	10枚つづり前売券 (直売のみの取扱)	
一般	1200円	1000円	8000円	・入場は閉場の30分前までです。
大学生・高校生	800円	500円	4000円	・入場券1枚で展示またはホールプログラムに1名1回入場できます。
中学生・小学生	300円	200円	_____	・学生券をご使用の方は、当日、学生証をご提示下さい。
グリーンコープ組員	800円	500円	_____	・小学校4年生以下、障害者、重度の障害者の介護者は無料です。
				・高校生・中学生・小学生の団体 (20名以上または1クラス以上) は、事前申し込みに限り展示鑑賞は無料となります。
				・20名以上の団体は前売料金となります。
				・グリーンコープ組員家族の学生等は、一般の学生等の料金と同じです。

お求めは

- ・チケットぴあ (セブンイレブン・サークルK・サンクス・ファミリーマート)、ローソンチケット (ローソン・ミニストップ) でチケットをお求めになれます (所定の手数料がかかる場合があります)。店頭の端末操作を簡単にするチケットぴあの「Pコード」ナンバーは、前売券、当日券ともに「991-209」、ローソンチケットの「Lコード」ナンバーは、前売券、当日券ともに「83999」です。なお、ファミリーマートでの購入は、チケットぴあWebサイトで申込み後の店頭引取りとなります。
- ・グリーンコープの前売券申込番号は、高校生以上大人「9090」、中学生・小学生「9089」です。
- ・お安くご入場いただけるつづり前売券は、水俣フォーラムのみの取り扱いですので、下記の方法をご利用ください。
- ・前売券の郵送をご希望の方は、郵便局常備の郵便振替用紙をご利用いただき、以下のように明記してご送金ください。
口座番号「00120-4-398614」、加入者名「水俣フォーラム」、通信欄に券種・枚数
ご入金を確認次第、チラシ・チケットをお送りします。なお11月10日の受付印で締め切らせていただきます。



■会場

【展示会場】 熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城町2-18 TEL 096-351-8411
JR 熊本駅よりバスまたは市電「市役所前」下車徒歩 5 分

【A 会場】 城彩苑多目的交流施設

熊本市中央区二の丸1-1-1 TEL 096-288-5600
JR 熊本駅より市電「花畑町」下車徒歩 5 分

【B 会場】 熊本市国際交流会館

熊本市中央区花畑町 4-18 TEL 096-359-2020
JR 熊本駅より市電「花畑町」またはバス「交通センター」下車徒歩 3 分

【C 会場】 熊本市現代美術館

熊本市中央区上通町 2-3 TEL 096-278-7500
JR 熊本駅よりバスまたは市電「通町筋」下車徒歩 2 分

【電気館】

熊本市中央区新市街 8-2 TEL 096-352-2121
JR 熊本駅より市電「辛島町」下車徒歩 2 分

※ 会期後半は混雑が予想されますので、ゆったりご鑑賞いただける前半のご来場をお勧めします。



■お問い合わせ

チケットのお求め、ボランティア募集については グリーンコープ 生活協同組合くまもと
熊本市西区新土河原2-1-1 TEL:096-324-8118 FAX:096-324-8123 E-mail:j0kmj0@greencoop.or.jp http://www.greencoop.or.jp

催し内容、団体鑑賞のお申し込みなどについては 認定NPO法人 水俣フォーラム
新宿区高田馬場1-34-12-404 TEL:03-3208-3051 FAX:03-3208-3052 E-mail:mf1997@minamata-f.com http://www.minamata-f.com

会場ボランティアへの参加とご寄付のお願い

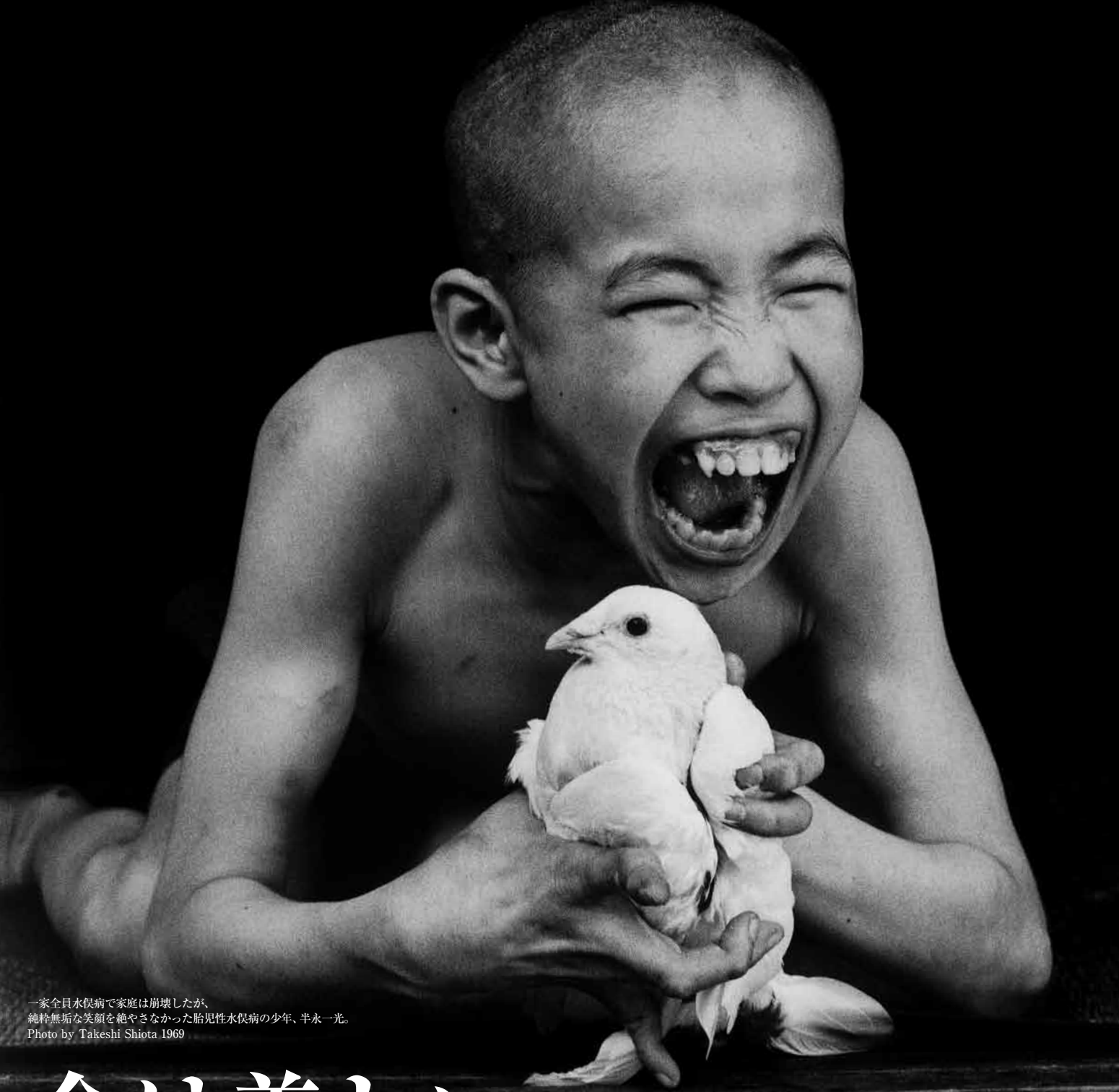
水俣病展2017開催のためには多くの労力と資金を必要とします。ポスター貼りや事務作業、設営などの開催準備や会場運営にボランティアとしてご参加いただける中学生以上の方は、上記まで早めにご連絡ください。説明会のご案内などの詳細資料をすぐにお送りします。ご寄付は、郵便振替口座「00120-4-398614」加入者名「水俣フォーラム」にご送金ください。なお、ボランティアに参加された方とご寄付いただいた方には謝意を表し、「開催協力者」として会場にお名前を掲示させていただきます。

11月16日(木)―12月10日(日) 熊本県立美術館分館 午前9時30分―午後6時30分 (土日祝日は5時15分、金曜日は8時、最終日は3時まで)

主催：グリーンコープ・水俣フォーラム／共催：熊本日日新聞社／後援：熊本県・熊本市・水俣市・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会
朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・西日本新聞社・NHK熊本放送局・熊本放送・くまもと県民テレビ・熊本朝日放送・テレビ熊本・エフエム熊本／協賛：熊本大学水俣病学術資料調査研究推進室・人間学研究会・熊本県保険医協会・熊本県民医連・連合熊本・自治労熊本・熊本県高教組・熊本県高齢者障害者福祉生協・熊本大学生協・熊本市仏教連合会・浄土真宗本願寺派熊本教区・創価学会青年平和会議・秋津レークタウンクリニック・グリーン発電会津・エックス都市研究所・環境構想研究所・グリーンクラブ・グリーンクラブ熊本支部会・共同運輸・ホープ印刷

水俣病展2017

Minamata Disease Exhibition



一家全員水俣病で家庭は崩壊したが、
純粋無垢な笑顔を絶やさなかった胎児性水俣病の少年、半永一光。
Photo by Takeshi Shiota 1969

命は美しい。

開催にあたって

いまや環境汚染の国際的シンボルとなった水俣病は、発生が確認されて60年を超す今日に至っても新たな患者からの申請がつづき、解決したとは言えない状況です。この事件についての展覧会「水俣展」はすでに全国で24回開催され14万人の入場者を得て、各種メディアから高い評価を受けています。

一方で、福島原発のメルトダウン以降次々と起こる問題は、この国がいかに「水俣」から学んでいないかを痛切に物語っています。

そこで私たちは、熊本市で初めて開催する「水俣展」の準備を始め

写真は桑原史成、塩田武史、河野裕昭



5歳の時、言葉も意識も奪われた11歳の少女 '62

指が硬直した漁師 '70

抗議する患者 '72

胎児性水俣病患者 '68

展示——水俣病事件の事実は現代日本に何を物語るのか。リニューアル初公開。

■ メイン展示 ……… 悲しみの底に何が見えるか

プロローグ：1956年4月、幼い少女を「奇病」が襲った
クロニクル：映像でたどる水俣病と私たちの60年
展示1：水俣の美しい自然・豊かな風土
展示2：水俣病とは何か
展示3：水銀はなぜ止まらなかったのか
展示4：被害者は何を求めたのか
展示5：その後の水俣と水俣病事件
エピローグ：「彼岸の団欒を垣間みる」石牟礼道子

■ 患者遺影 ……… 死者たちが来場者を見つめる

「水俣」シリーズで知られる記録映画作家・土本典昭夫妻が1年間水俣に滞在。所在が判明した800軒の遺族を訪ね遺影を収集。その後の患者家族による収集とあわせ500影を空間一面に展示。

■ 実物展示 ……… 残された物こそ雄弁に語る

水俣病発症量のメチル水銀
水俣湾の海底にあった高濃度の水銀ヘドロ
患者が半年間で服用した薬のカラ
水俣湾に張られていた汚染魚仕切網
患者の面会を阻むためチッソ本社入り口に設けられた鉄格子の一部
チッソ(現JNC)製の素材を用いた現在の商品など

■ 美術展示 ……… 事実は表現されて真実となる

丸木位里・丸木俊「水俣の図」レプリカ
中村正義「何処へいく」「おそれA」「おそれB」レプリカ
中村一美「水俣」レプリカ

■ 写真展示 ……… レンズが失われた声を聞いた

W.ユージン・スミス＋アイリーン・M.スミス
桑原史成「水俣病・原点から」
塩田武史「水俣・深き淵より」
芥川仁「水俣・厳存する風景」

めましたが、熊本地震により中断を余儀なくされました。その傷が癒えてはいませんが、だからこそ水俣病事件で現われる諸相を通して「命」について学び直したいと考えました。

20年ぶりにリニューアルした展示と、お話しいただく方々の協力により実現したホールプログラムを、ぜひ、ともにご鑑賞下さいますようお願いいたします。

グリーンコープ生活協同組合

2017年8月 認定NPO法人 水俣フォーラム

ホールプログラム——「水俣病」の経験から何を学ぶか。展示を超えて、さらに学びたい人のために。

■ 「私と水俣病」—患者さんのお話から

11月18日(土)午後6時30分開場、7時～9時、A会場

緒方正実(建具師、水俣病患者)

香山リカ(精神科医)

水俣病を生み出した近代が、さらに効率性・合理性を極める現代は、心の病が蔓延する社会。そんな今、メディアで親しまれる精神科医の香山。行政に立ち向かい「人間であること」を守った緒方。2人の講演と対話から考える「心」。



緒方正実



香山リカ

■ 「1人からの可能性」—石牟礼道子と原田正純

11月22日(水)午後6時30分開場、7時～9時、B会場

柳田邦男(ノンフィクション作家)

池澤夏樹(作家)

小宮悦子 司会(キャスター)



柳田邦男

『苦海浄土』を書いて「水俣病を告発する会」の生みの親となった石牟礼を語る池澤。胎児性患者発生の論証に努め、患者の側に終生立ち続けた原田を語る柳田。異なる分野でたった1人から歩み始めた2人の「人と仕事」を敬愛する2人による講演と対話。



池澤夏樹



小宮悦子

■ 映画「水俣—患者さんとその世界」完全版

11月23日(木・祝)午前9時30分開場、10時～12時50分、電気館

土本典昭監督作品 35ミリフィルム上映

1971年／モノクロ2時間47分

海外の映画人にも知られる「土本の水俣」。その代表作の46年ぶりの35ミリフィルム上映が実現。ニュープリント同様の鮮明さで甦るのは、初めて裁判に踏み切った今は亡き患者たちの豊かな表情と言葉。



■ 「私と水俣病」—患者さんのお話から

11月25日(土)午後6時30分開場、7時～9時、B会場

加賀田清子(胎児性水俣病患者)

いとうせいこう(クリエイター)

大半を施設で生きた加賀田が、自身の写真をもとに半生を振り返る。そこから語るのは、東日本大震災がテーマの小説発表、竹中直人らと続ける舞台、ももクロへの歌詞提供など多方面で活動するという。聞き手は水俣フォーラムの実川悠太。



加賀田清子



いとうせいこう

会場—A会場：城彩苑多目的交流施設(144席)。B会場：熊本市国際交流会館 ホール(230席)。C会場：熊本市現代美術館 アートロフト(90席)。電気館(140席)。
チケット—詳細は裏面に記載(展示会場とは別にもう一枚必要です)。 ご注意—満席によりお入りいただけない場合もありますので早めにお越しください。

水俣展の鑑賞をおすすめします

秋葉忠利 前・広島市長
秋吉敏子 ジャズピアニスト
石牟礼道子 作家
磯崎新 建築家
伊藤比呂美 詩人
色川大吉 歴史学

上千野鶴子 家族社会学
大石芳野 写真家
荻上チキ 評論家
奥田愛基 元・SEALDs
おすぎ 映画評論家
金子勝 経済学

上條恒彦 歌手、俳優
小室等 ミュージシャン
甲野善紀 武術家
是枝裕和 映画監督
崔洋一 映画監督
佐高信 経済評論家
澤地久枝 作家

潮谷義子 前・熊本県知事
C.W.ニコル 作家
高橋源一郎 作家
田口ランディ 作家
田中優子 法政大学総長、近世文化
富樫貞夫 社会学
長倉洋海 写真家

中島岳志 近代政治思想史
萩尾望都 漫画家
平田オリザ 劇作家
ピーコ ファッションジャーナリスト
ピーター・バラカン プロードキャスター
見田宗介 社会学
水戸岡鋭治 デザイナー

宮本憲一 日本環境会議代表
森まゆみ 作家
森達也 ドキュメンタリー作家
山田太一 脚本家
米本昌平 科学史
渡辺京二 歴史家

以上、50音順

■ シンポジウム「水俣から考える—『命』の意味—^{いのち}」

11月28日(火)午前12時開場、

12時30分～3時、B会場

緒方正人(漁師、水俣病患者)

中村桂子(生命誌)

上田紀行(文化人類学)

竹下景子 司会(俳優)

環境汚染や食品添加物、放射能で危機に曝される一方、多発する自殺やいじめ、心の病の根底には、生命の固有性を感じにくくなった現代社会の姿が。そんな今だからこそ根源から考えたい「そもそも命とは何か」。



緒方正人



中村桂子



上田紀行



竹下景子

■ 加藤典洋さんと映画「水俣病—その20年」を見る

12月2日(土)午後1時30分開場、2時～4時、C会場

土本典昭監督作品 1976年／カラー43分／DVD上映

加藤典洋(文芸評論家)

映画「水俣」第1作以来撮り貯めた膨大なフィルムをもとにしたダイジェスト編ながらも水俣病の本質に迫る。97年『敗戦後論』で当時の戦後認識を覆した論客が読み解く時代へのメッセージ。



映画「水俣病—その20年」より



加藤典洋

■ 「私と水俣病」—患者さんのお話から

12月5日(火)午後6時30分開場、7時～9時、B会場

杉本肇(漁師、芸人、水俣病患者家族)

若松英輔(批評家)

NHK教育TVの人気番組「100分de名著」で石牟礼道子『苦海浄土』の印象を刷新した気鋭、若松の関心は、石牟礼が度々紹介した患者・杉本栄子に及ぶ。その息子・肇は「患者だからこそ笑いを届けたい」と語る。2人の講演と対話。



杉本肇



若松英輔

■ 「私と水俣病」—患者さんのお話から

12月9日(土)午後1時30分開場、2時～4時、C会場

川本愛一郎(作業療法士、水俣病患者家族)

山田真(小児科医)

母と子の育児事典の著者として知られる山田は、3.11以来、福島の子どもたちを診つづける。その原点が、患者・川本輝夫らによるチッソとの自主交渉支援。仕事を通じて輝夫の志を生きる息子・愛一郎。2人の講演と対話が描く「水俣と福島」。



川本愛一郎



山田真